

# 陸上運動部部便り

2011年4月号

## 六大戦

### 目次

1 六大戦	1
1.1 監督の言葉	1
1.2 主将の言葉	1
1.3 試合経過	2
1.4 試合結果	7
2 11年度部内五傑	10
3 自己記録更新者一覧 2010.10.17~2011.4.2	10
4 主務より	11
4.1 応援OB・OG紹介	11
4.2 行事予定	11
4.3 連絡先(慶甲等)	12

## 1 六大戦

### 1.1 監督の言葉

監督 藤田 靖浩

#### 屈辱の6位

今回の六大戦は、震災影響もあり、一時は開催も危ぶまれましたが、法政大学の苅部監督をはじめ、関係各位のご尽力により無事開催することができました。

結果は総合得点25点で6位。得点、順位とも屈辱の結果です。円盤投で3年佐々木が39m37の自己ベスト(歴代5位)で4位入賞と、なかなかの好スタートをきったものの、その後が続かず、主将春日も100mで11"11で惜しくも9位、3年大澤が400mで49"88で決勝に残ったものの、足を痛めて8位。今期好調の長距離陣も5000mで、(持ち記録通りではありませんが、)東が15'06"60で7

位、宮野が15'24"67の9位といまひとつ得点を重ねることができませんでした。

また、怪我人、練習不足等により、十分なエントリーが出来なかったことも、今回の敗因の大きな一つです。震災によりグラウンドが使用禁止という影響があったにせよ、他大学も多少の差はあれ、似たような状況であり、あまり言い訳にはならず、私自身を含め、意識の甘さがもろに表れてしまった結果といえます。

然しながら、幸いにも関東インカレまではまだ1カ月。シーズン初戦で、各自多くの反省点を見つけられたことで、油断することなく本番に臨んでいけるはずです。残り少ない時間ではありますが、ターゲットを絞り、一人でも多くの選手を本番に送り出すべく、なんとか巻き返しを図っていきたいと思います。

お忙しいところ応援に来ていただいた皆様、本当にありがとうございました。

### 1.2 主将の言葉

主将 春日 慶樹

今シーズンの初戦である六大戦が終了いたしました。春季オープンや東大競技会が東日本大震災の影響から開催されなかったために、長距離・競歩パートを除きますと初の試合であった部員が大半です。駒場トラックが使えず、また課外活動の自粛要請からパートごとの練習も限られ、非常に厳しい練習環境の中で六大戦を迎えました。

シーズンの中で最もレベルの高い対校戦であり例年厳しい戦いが予想されましたが、少しでも1部校の選手に食らいついていくという気持ちで試合に臨みました。結果としましては1部校との実力の差を見せつけられ、総合6位に終わりました。昨年よりも好コンディションであり、記録も期待

できる試合ではありましたが、調整不足等から全体的に低記録でした。しかしながら、このような厳しい状況の中でも佐々木(3年)が円盤で、片山(3年)が砲丸で自己ベストを更新したことは好材料です。

1カ月後に関東インカレが迫っていますが、例年よりも標準記録があがっていることから出場資格を得ている部員が少ない現状です。その中で佐々木は円盤投が40m台が目前であり、関東インカレでの表彰台の期待が高まります。また、競歩の瀧川(3年)も持ち記録から同様に表彰台の期待が持てます。1人でも多くの部員が標準記録を突破し、入賞出来ますように精一杯がんばっていきますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

### 1.3 試合経過

#### トラック

##### 9:50 男子110mH 予選

1組7レーンに川原(2年)の出場。気温はやや低めだが、かすかに追い風が吹いており、好記録が期待される。怪我からの復帰戦を華々しく飾ってほしい。しかしながらスタートで出遅れ、焦ったのか1台目で体が大きく浮いてしまう。2台目以降で挽回を図ろうとするも、なかなかスピードに乗れず、さらに後半疲れが出て7,8,9台目を倒してしまう。最終的に前を行く選手と差を詰められないまま16"59の5着でフィニッシュ。このときの風は+1.5mであった。残念ながら決勝進出には至らなかった。

2組2レーンに谷口(3年)の出場。肌寒かった風がやみ、ほぼ無風の中でのレースとなる。まずまずのスタートを切るも、1台目を逆足で跳んでリズムを崩してしまう。体勢を立て直せないまま9台目にも足をかけ、10台目で転倒してしまい、大きく遅れて20"54の6着でフィニッシュ。このときの風は±0mであった。川原と同様に1台目でリズムを崩してレース全体に悪影響を与えてしまうという課題が浮き彫りとなるレースで

あった。課題を克服し、さらなる飛躍を期待したい。

##### 10:05 男子400m 予選

1組2レーンに大澤(3年)が出場。強豪選手の中でのレースだが、気負わず食らい付いていてもらいたい。号砲が鳴りスタートから余分な力の入らないスムーズな加速で外側の選手を追っていく。200mを過ぎても速度を保ったまま必死についていき、300m以降に2人をおかわしてフィニッシュ。記録は4着の49"88、全体で7番目の記録で決勝進出を決めた。前半を抑え気味のレースだったため、決勝でさらなる好記録が期待される。

2組2レーンに小松(4年)が出場。レベルの高い選手とともに走ることで、進化を遂げることができるか。スタートから軽快なリズムで加速していき、スピードに乗ってバックストレートに入るも、じわじわと前を行く選手に離されてしまう。後半も必死に追いつがるが、コーナーの出口付近で失速、そのまま6着の52"72でフィニッシュ。長い距離の練習を積めていなかったこともあり、後半での失速が残念であった。シーズン初戦で見つけたこの課題を糧にして、レベルアップを図ってほしい。

##### 10:30 男子100m 予選

1組7レーンに春日(4年)が出場。トップ選手の集う戦いだが、貪欲に1つでも上の順位を狙っていきたいところである。反応の良いスタートから低い姿勢のまま加速していく。4人に先行されるが、中盤から1人をとらえ、4着争いをしながらフィニッシュ。記録は11"11の5着、このときの風は-0.7mであった。100分の1秒差で惜しくも決勝進出を逃したが、この悔しさをバネに今後活躍してほしい。

2組7レーンに真木(3年)が出場。腰の痛みを抱えながらの出場である。号砲とともにまずまずのスタートを切り、ピッチを刻んで加速をしていくが、だん

だんと差をつけられてしまう。後半必死に差を詰めようとするも、健闘むなしく11'28の5着でフィニッシュ。このときの風は-0.6mであった。記録自体は決して満足いくものとは言えないが、腰の痛みを抱えながらのレースであったことを考慮すると、今後の飛躍を予感させるレースであったと言えるだろう。

#### 11:25 男子 800m 決勝

原(2年)、山本(2年)の出場。原は本来1500mなどの長めの距離を専門とするが、どこまでレベルの高い試合に食らいつけるか。一方山本は、春合宿では怪我の影響で走れていない場面もあったが、本来のスピードを生かした走りができるかどうかは鍵となった。

山本・原ともにスタートからトップには離されてしまものの、なんとか最後尾に食らいつく。しかし300m通過地点で原は離されてしまう。400mの通過は山本が57"、原が58"。山本はその後最後尾につき、スパトにはいる。原も懸命に走るが、徐々に集団からは離されていった。山本はスパトをかけ、2'00"29の11位でゴール。得点にはならなかったが、今後の活躍が期待される好走であった。山本に少し遅れて原が2'05"88の12位でゴール。課題の残る走りだったが、今後しっかりと自分にあった練習をつめば、1500m・800mともによい結果につながるだろう。

#### 12:25 男子 3000mSC 決勝

渡邊駿(3年)、岩川(3年)の出場。青木(4年)のコンディションが悪く、対校戦未経験の岩川が急遽出場となった。晴れたり曇ったりだが暖かい天候の中でのレースとなった。3月の立川ハーフ、東大競技会、春期オープンが震災の影響で中止となり実戦から遠ざかっていた上に、駒場グラウンドの使用が震災以降禁止されたためハードル練習もままならず、ほぼぶっつけ本番の状態であった。しかし、渡邊は昨年のこの種目で得点し、岩川は冬練の成果が調子が上がってきていたの

で昨年同様得点が期待された。

序盤からハイペースな展開となり、渡邊は7番手、岩川は集団から少し離れ12番手につく。1000mの通過は渡邊が3'04"、岩川が3'12"。1200mあたりから渡邊はペースが落ちて集団から離れてしまった。最後尾を走っていた岩川は着実にペースを刻み、2000m付近で渡邊の前に出て10番手に。2000mの通過は岩川が6'38"、渡邊が6'40"。岩川と渡邊の差は約20mまで広がったが、ラスト1周で渡邊がスパトし再び岩川の前に出た。前の選手が1人失格であったため、結果として2人とも順位が1つ上がり、渡邊は10'06"90の9位でゴール、岩川は10'12"72の10位でゴールした。

両選手とも自己ベストには及ばないタイムだったが、上記のような状況ではまずまずの結果といえよう。今後のトラックシーズンの活躍を期待したい。

#### 12:55 男子 4 × 100m 決勝

2レーンに春日(4年)-中原(2年)-真木(3年)-八子(2年)の走順で出場。中原・八子は東大での4継は初出場であり緊張の色も見える。また、最もスピードのある春日が1走からとばしていくことで他の大学にプレッシャーを与えていきたい。

1走の春日は勢いのよい飛び出しからスムーズにコーナーを駆け抜け、やや詰まりながら2走の中原にバトンパス。中原はバトンをもろうと力強い走りを見せるが、やや力が入りすぎ、じわじわと差をつけられてしまう。バトンパスに入るところで微妙に失速して、3走の真木は一旦スピードを落としてからのバトンパスになってしまった。真木はバトンを受け取ってから再び加速、前を行く立教大学を追う。なめらかにコーナーを曲がり、4走の八子にバトンパス。ここで5位を走る立教大学がバトンパスにてこずり、5位に浮上する。バトンを受けた八子は前を行く明治大学をとらえるべく全力で走るが、差は縮まらずにそのまま

43"25の5位でフィニッシュ。

バトンパスの精度や個人の走りなど修正すべき点が多いが、強豪校が集まるこの大会で健闘したと言えるだろう。今後のシーズンの戦いに期待の持てるレースであった。

#### 13:55 男子 1500m 決勝

9レーンに吉岡(2年)、11レーンに大内田(3年)の出場。大内田は昨年に引き続きの出場で吉岡は初対校となる。例年レベルが高く、中々得点の難しい種目ではあるが、何とか得点争いに絡みたいところ。

レースは序盤から有力選手がハイペースを作り、それに引っ張られる展開となる。大内田、吉岡は集団の後方につくが、それでも400mの通過は61"と速い。その後、ペースを落とした7番手以降で第二集団が形成され、大内田は8番手、吉岡は最後尾から様子を伺う。800mの通過は2'10"。ここから第二集団のペースも徐々にあがる。大内田は8番手をキープして集団の先頭についていくが、吉岡は900m地点あたりから少し集団に遅れをとりはじめてしまう。1000mは大内田が2'48"、吉岡が2'50"の通過。ラストの鐘が鳴り、周りのスピードも上がる。大内田は一人抜かれて9番手に下がり、吉岡は依然最後尾。大内田は必死に粘り、ラストスパートで一人かわすものの、逆に後ろから1人に抜かれ、4'13"64の9位でゴールイン。吉岡はラスト200mからスパートをかけて集団に追い付くものの、あとひとつ伸びきれず、4'13"95の10位でゴール。

結果として得点獲得はならなかった。また、シーズン初レースということもあり、ややレース勘に欠ける走りとなってしまった。しかし、400mを61"で入りながらもレースをまとめられたことは、今後期待が持てる結果と言えるであろう。

#### 14:25 男子 400m 決勝

2レーンに大澤(3年)が出場。予選

のレース以降、もともと痛めていたハムストリングスの張りが悪化しており、両足をテーピングで固めての出場であったが、六大戦の決勝という大舞台で思う存分暴れまわってほしい。

号砲が鳴り他の選手が勢いよくスタートする中、やはり脚が痛むのか出だしから遅れてしまう。さらにバックストレートで大きく失速し、他の選手から大幅に離されてしまう。最後まで持てる力を振り絞って走るも、差を縮めることができず、7位と大きくはなれた53"05の8位でフィニッシュ。

記録としては満足いくものではなかったかもしれないが、脚に痛みを抱えながらも対校選手として1点をもぎ取ったことは大きな意味があった。これからも快刀乱麻の活躍を期待したい。

#### 15:45 男子 5000m 決勝

東(4年)、宮野(4年)の出場。箱根駅伝優勝校の選手を始めとし実力のある選手が揃う今レースでは苦しい戦いが予想されるが、2人には1点でも多く得点してほしいところである。昼頃は日が出ており春らしい暖かさであったが、15時頃から日が傾き始め日陰では少し肌寒さを感じる中でのレースとなった。

レースは序盤から早大、明大、法大の6選手が形成する先頭集団と他の5選手からなる後方集団に分かれ、それぞれの集団での順位争いが展開されることとなった。1000m前では既に2つの集団の間に開きが出てきたが、それでも後方集団の先頭を走る宮野、集団の後方についた東は1000mを2'50"というハイペースで通過する。先頭集団がこれ以上のハイペースを維持する中、後方集団はペースが落ち始める。途中宮野が後退し代わって東が集団の先頭に出て2000mを5'50"で通過、更にそこから集団がばらけて東と平塚(慶大)の2人が先頭に立つ。このとき宮野は集団から離れ10位まで後退した。3000m手前から平塚が前に出て東を引き離そうとするが、東は苦しい表情

を見せながらも粘って後ろから離れず、ラスト100mで見事なスパートを見せ平塚を抜き去って15'06"60の7位でゴール。宮野は4200m付近で永武(立大)を抜き、一時は東・平塚との差を縮めたものの追い切れず15'24"67の9位でゴールした。

トラックレース初戦ということもあり、東、宮野の両者とも5000mのスピードに対応できていないようであった。今後はこの面を強化した2人の活躍を期待したい。

#### 16:20 男子4×400mR 決勝

7レーンに春日(4年)-原(5年)-小松(4年)-大澤(3年)の走順で出場。400m系に負傷者が多く、急遽このオーダーで出場することとなった。タイム差のあるチームとのレースであるが、健闘を期待したい。

1走の春日は前半から積極的なレース展開を見せる。後半わずかに失速するも、激しく5位を争って2走の原にバトンパス。この日すでに4種目に出場している原はさすがに疲労の色が見えるが、大きなストライドでトラックを駆け抜ける。しかしながら5秒程度の差をつけられてしまい、3走の小松にバトンパスをする。バトンをもった小松は軽快なピッチで前を行く立教大学を追う。400mでの反省を生かし、最後まで失速せずに走るが、さらに差を広げられて4走の大澤にバトンパス。大澤は400mで痛めたハムストリングスをテーピングで固めての強行出場であった。やはり怪我の影響で思うような走りができず、大きく差をつけられたままフィニッシュ。記録は3'35"06の6位であった。

怪我人が多く、他チームと戦う舞台に立つことさえままならない状況は非常に残念なことである。この反省を生かし、次回は万全のチームで走ってもらいたい。

#### 10:00 男子走高跳 決勝

原(5年)の出場。怪我のため小松(2年)が欠場となり、補欠選手もいないため1名での出場となった。他大学の選手との実力の差はあるものの、原は春休み中に練習で1m60を成功させており、今回の試合で自己ベスト更新に期待がかかる。

練習跳躍を終え、1m60から跳躍を開始する。1跳目は失敗に終わる。この高さに挑戦するのは原だけであったため、連続での試技となる。続く2跳目、3跳目は良い跳躍を見せたものの、惜しくも成功はならなかった。グラウンドが使用できないため、調整には苦労したようだが、練習の成果もあって今シーズン高跳が好調のようであり、今後の成長が期待される。

今回は、選手層の薄さが露呈する結果であった。今後は新入生を含め、若い戦力の活躍にも期待したい。

#### 10:00 男子円盤投 決勝

佐々木(3年)、片山(3年)の出場。運営側のトラブルもあり競技は30分ほど遅れての開始となった。天候は晴れで、前日に比べると少し肌寒かった。

片山は、本番ではファールを恐れた投擲になってしまうことが自分の弱点と認識していたので、前半果敢に攻めた。しかし駒場グラウンドでの練習が禁止されている影響でほとんど練習が積めていない片山は投げが上手くかみ合わない。しかし後半は力みもとれ、6投終わって31m41の7位で競技を終えた。まずまずのシーズンインといえるのではなからうか。片山とは対照的に佐々木は前日まで地元である石川県小松市の末広運動公園陸上競技場で練習を積んできた。1投目ファール、2投目35m台と集中し切れなかったが、練習の甲斐あって最終的には39m37の4位で競技を終えた。

両名得点数が少ないが、早稲田大学筆頭に競技レベルの高い選手との勝負であったので妥当である。来年はもっと得

点できるよう努力を期待したい。

#### 12:30 男子三段跳 決勝

廣瀬(6年)、高木(4年)の出場。前日の天気予報では気温が高くなるということだったが、当日は若干肌寒く、最高のコンディションとは言えなかった。

他大で棄権者が相次ぎ、8人での試技となった。廣瀬はなかなか足が合わず、3本目が終わった段階で記録なしであった。なんとか5本目で13m35を跳んだが、7位に終わった。高木は昨シーズンの後半から三段跳を始めたため、試技前には不安の色もうかがえたが、6本目で13m46を跳び6位であった。

地震の影響でグラウンドが使いえなかったため、各々調整がうまくいかなかったように思えた。まもなく三段跳で期待の1年生が入部してくるので、2年生以上は危機感を持って練習に励んでもらいたい。

#### 12:30 男子棒高跳 決勝

原(5年)のみの出場。肩板損傷で手術をした土居、膝を痛めた松原を欠き、対校枠を埋められない厳しい試合となった。

震災の影響で、駒場キャンパスでの練習ができない中、なんとか跳躍練習を積んできた原。3m40からの跳躍。決して万全の動きでは無かったが、グリップに余裕があったためこれを一跳目でクリア。続く3m60の一跳目、勢いは十分だが、腰を持ち上げることができずに失敗。二跳目では空中動作を修正し、リード脚をうまく使うが惜しくも失敗した。三跳目はうまく身体を持ち上げることができ、クリアするかに思われたが、惜しくも胸体がバーをかすり、失敗跳躍となってしまった。

結局、6位タイで試合を終えた。順位としては最低限の仕事を果たしたと言えるが、記録は物足りず、グラウンドが使用できるようになってから、更なる跳躍練習を重ねて欲しい。

#### 12:30 男子砲丸投 決勝

原(5年)、片山(3年)の出場。天候は晴れ。思っていたよりかは気温は上がらなかったが、風はあまりなく運動に適した環境であった。六大戦は選手のレベルが高く、苦戦することが予想された。両選手には周りの選手の胸を借りるつもりで、ファールを恐れない攻めの投擲をすることが期待された。

原は冬期連取練習が功を奏し、調整の期間により感覚をつかんでいたのが好記録が狙えた。しかし、本番では棒高跳の試技と並行していたので、砲丸投の試技に対して十分な準備ができなかった。2投目に9m13を投げるが、3投目に伸ばすことができずに9m13で9位。片山は周りの選手に圧倒されたのか、1投目に8m台の記録を残してしまうが徐々に立て直した。4投目には攻めの姿勢が見え始め、ファウルもあった。これが6投目の投擲につながり、自己ベストの9m98で8位で終わった。

周りの選手が12、3mを投げるような選手ばかりだったので、順位については、今の實力では仕方のない結果であった。来年はより成長して、六大戦でも十分に戦えるような實力をつけていってもらいたい。

#### 14:30 男子やり投 決勝

千葉(5年)、山東(3年)の出場。天候に恵まれちょうどいい気温の中で試合は行われた。相手は強豪ばかりであるが、少しでもいい記録を出して点を取り今シーズンにつなげていきたいところであった。

千葉は長い間練習から離れていて不安要素が残っていた。1投目から40m台の投擲が続き、前半を46m90の暫定6位で折り返す。しかし後半は記録を伸ばすことができずこのままの順位で終わった。久しぶりの投擲ではあるが、やや不満の残る結果であった。山東も十分に練習ができないまま試合を迎えることになった。1投目は39m72をマークし、自己ベストまであと13cmと好記録であつ

た。しかしその後の投擲では助走に乱れが見られ、さらに記録を伸ばすことができないまま 39m72 で 8 位という結果に終わった。

今回は運動施設が使えず十分な練習をつめなかったが、実力差がかなりあったことは認めざるを得ない。しかし相手の選手から学ぶところは沢山あったので、これを機にシーズン中にいい記録が出せるように頑張ってもらいたい。

#### 14:30 男子走幅跳 決勝

廣瀬(6年)の出場。怪我のため飯島(2年)、沢登(2年)は出場できず、1名で試合に臨むこととなった。天候は晴れ、強い風も無くまずまずのコンディションである。

6m 後半の記録を持つ廣瀬であるが、最近はあまり練習を積めていなかったうえ、震災の影響でグラウンドが使用禁止になっていたため調整不足も懸念される。廣瀬は試技順 7 番目で競技を開始した。やはり練習不足が響いたか、なかなか良い跳躍ができない。3本跳んで、5m91 がベスト。残念ながらエイト漏れに終わった。

跳躍競技全体に言えることであるが、怪我人が多く、高学年や他パートの人材に頼りすぎている。今後、対校戦でチームに貢献して行くには、怪我人の復帰と若い戦力の参入が不可欠だろう。

### 1.4 試合結果

第 44 回東京六大学対校陸上競技大会  
於 霞ヶ丘国立陸上競技場 (H23.4.2)

男子 100m 決勝 (-0.8)			
1	本橋秀章	慶大	10"79
2	小林靖典	法大	10"85
3	久保田裕是	早大	10"90
4	石川直人	法大	10"93
5	林風汰	早大	10"94
6	平松巧至	明大	10"98
7	九嶋大樹	慶大	11"14
-	吉田洸平	明大	DNS

男子 100m 予選			
1 組 (-0.7)			
5	春日慶輝	東大	11"11
2 組 (+1.7)			
5	真木伸浩	東大	11"28

男子 400m 決勝			
1	浦野晃弘	早大	48"54
2	吉岡史則	法大	48"92
3	徳永大地	明大	48"28
4	濱野純平	早大	49"12
5	大野三津雄	慶大	49"28
6	野田滉二	立大	49"59
7	木村佑介	法大	49"96
8	大澤渉	東大	53"05

男子 400m 予選			
1 組			
4	大澤渉	東大	49"88
2 組			
6	小松侑太	東大	52"71

男子 800m 決勝			
1	岡崎達郎	早大	1'51"26
2	笹村直也	慶大	1'53"46
3	浅井克弘	慶大	1'54"48
4	粟津良介	明大	1'55"22

5	小宮佳治	法大	1'55"24
6	嘉瀬貴祥	立大	1'56"12
7	内田皓大	早大	1'56"82
8	前野景	法大	1'57"29
9	栗田翔太	立大	1'58"33
10	黒田弘樹	明大	1'58"45
11	山本憲二郎	東大	2'00"29
12	原慎一郎	東大	2'05"88

## 男子 1500m 決勝

1	八木沢元樹	明大	3'48"60
2	大迫傑	早大	3'49"01
3	岡崎達郎	早大	3'50"60
4	皆川雄太	法大	3'51"34
5	山崎亮平	明大	4'00"25
6	渡邊昂	法大	4'02"92
7	福島健介	慶大	4'10"19
8	榊原奨太	立大	4'13"40
9	大内田弘太郎	東大	4'13"64
10	吉岡基	東大	4'13"95
11	下地航	立大	4'14"72
-	櫛田貴茂	慶大	DNS

## 男子 5000m 決勝

1	矢澤曜	早大	14'03"04
2	八木勇樹	早大	14'15"73
3	菊池賢人	明大	14'20"95
4	北魁道	明大	14'29"36
5	品田潤之	法大	14'47"00
6	鍵谷亮	法大	15'02"54
7	東大貴	東大	15'06"60
8	平塚知成	慶大	15'07"79
9	宮野健司	東大	15'24"67
10	永武宏樹	立大	15'29"87
11	門出康孝	慶大	16'06"56
-	太田祐之	立大	DNS

## 男子 110mH 決勝 (+2.0)

1	日野勇輝	早大	13"95
2	矢澤航	法大	14"03
3	竹中航	早大	14"32
4	原将人	法大	14"33
5	秋山大輔	慶大	14"72

6	佐々木洸	明大	14"78
7	小島弘毅	慶大	15"00
-	松原時生	明大	DNF

## 男子 110mH 予選

1組 (+1.5)			
5	川原善紀	東大	15"67
2組 (-1.2)			
5	谷口尚正	東大	20"54

## 男子 3000mSC 決勝

1	工藤皓平	早大	9'04"33
2	田澤範紀	早大	9'08"53
3	笹崎高志	明大	9'10"15
4	太田裕之	立大	9'17"62
5	田井慎一郎	法大	9'17"75
6	小林貴大	明大	9'36"36
7	野沢好智	立大	9'36"55
8	鐵本智大	慶大	9'36"64
9	渡邊駿	東大	10'06"90
10	岩川純也	東大	10'12"72
11	松田昂大	慶大	10'34"70
-	田子祐輝	法大	DSQ

## 男子 4 × 100mR 決勝

1	法大	40"40
2	慶大	40"69
3	早大	41"11
4	立大	41"54
5	東大	43"25
(春日-中原-真木-八子)		
6	法大	43"83

## 男子 4 × 400mR 決勝

1	慶大	3'10"31
2	早大	3'13"14
3	法大	3'13"55
4	明大	3'15"30
5	立大	3'16"79
6	東大	3'35"06
(春日-中原-小松-大澤)		

男子走高跳決勝			
1	佐藤文哉	法大	2m08
2	高須賀俊徳	法大	2m05
3	宇都宮健佑	慶大	1m95
4	林風汰	早大	1m85
5	早川恭平	早大	1m80
6	託摩知弘	慶大	1m80
7	亀井直哉	立大	1m75
-	原湖南	東大	NM

男子棒高跳決勝			
1	川島優	慶大	5m00
2	安藤大地	早大	4m90
3	土井翔太	早大	4m60
4	服部研斗	法大	3m80
5	塩原敬	法大	3m60
6	亀井直哉	立大	3m40
7	原湖楠	東大	3m40
8	杉本侑嗣	慶大	3m40
-	櫻井優也	立大	NM
-	松原洸也	東大	DNS

男子走幅跳決勝			
1	戸谷隼人	法大	7m39(± 0.0)
2	林風汰	早大	7m32(+1.6)
3	長尾勇佑	慶大	7m18(+0.5)
4	渡辺翔大	早大	7m01(+0.1)
5	井上公佑	法大	6m87(+0.7)
6	松堂永	立大	6m58(+0.9)
7	林悟	明大	6m57(+1.0)
8	亀井直哉	立大	6m34(+0.1)
9	小野寺将也	慶大	6m09(+1.9)
10	廣瀬彬	東大	5m91(± 0.0)
-	沢登良馬	東大	DNS

男子三段跳決勝			
1	戸谷隼人	法大	15m03(+1.2)
2	和泉理久	慶大	14m49(+1.7)
3	松原聖一	法大	14m41(+0.5)
4	松堂永	立大	14m22(+1.4)
5	安藤大地	早大	13m62(+1.1)
6	高木海平	東大	13m46(+0.3)

7	廣瀬彬	東大	13m35(+1.2)
8	西方猛	立大	12m89(+1.0)
-	重村有亮	慶大	DNS

男子砲丸投決勝			
1	秋本壯樹	慶大	15m76
2	窪田章人	早大	14m81
3	古市裕磨	法大	14m43
4	三村幸輝	法大	14m14
5	佐藤一桐	明大	14m06
6	キアラシ・ダナ	慶大	13m68
7	有間佳一郎	早大	12m38
8	片山卓也	東大	9m98
9	原湖楠	東大	9m13

男子円盤投決勝			
1	ディーン元気	早大	47m05
2	花田優平	法大	41m41
3	堀内隆太	慶大	39m61
4	佐々木駿	東大	39m37
5	大塚宗	法大	37m29
6	土井翔太	早大	32m55
7	片山卓也	東大	31m41
8	伊藤悠一	慶大	30m27
9	佐藤一桐	明大	28m77
10	森本憲貴	立大	20m73

男子やり投決勝			
1	ディーン元気	早大	75m20
2	神崎真悟	早大	66m18
3	西森大展	慶大	61m71
4	堀内隆太	慶大	56m07
5	古市裕磨	法大	54m60
6	千葉伸宏	東大	46m90
7	塩原敬	法大	44m44
8	山東誉英	東大	39m72

男子トラック順位	
1	早大 100
2	法大 70
3	明大 55
4	慶大 51

5	立大	16
6	東大	6

## 男子フィールド順位

1	法大	78
2	早大	73
3	慶大	61
4	東大	19
5	立大	14
6	明大	6

## 男子総合順位

1	早大	173
2	法大	148
3	慶大	112
4	明大	61
5	立大	30
6	東大	25

## 2 11年度部内五傑

本戦が今年度の初戦でした故、部内五傑はお休みさせていただきます。ご了承下さい。  
なお、10年度部内五傑の決定版は会報(復刊第五十八号)にて掲載致しますのでご参照下さい。

## 3 自己記録更新者一覧

2010.10.17～2011.4.2

## 10/23-24 第211回日本体育大学長距離競技会

1500m	宮野健司(3年)	4'05"91
3000m	浜松由莉(2年)	10'25"86

## 10/31 第49回全日本競歩高畠大会

20kmW	瀧川朗(2年)	1:32'47
-------	---------	---------

## 11/6-7 第12回東京大学競技会

100m	桜井駿(1年)	12"22(-0.1)
100m	真木伸浩(2年)	11"24(+0.5)
800m	近藤堯之(4年)	1'59"57
1500m	浜松由莉(2年)	4'57"14
110mH	渡邊拓也(4年)	19"89(+0.8)
やり投	渡邊拓也(4年)	29m17

## 11/21 第23回上尾シティマラソン

5km	浜松由莉(2年)	18'47
ハーフマラソン	宮野健司(3年)	1:06'59
ハーフマラソン	田片亨典(1年)	1:11'48
ハーフマラソン	岩川純也(2年)	1:12'15
ハーフマラソン	松野智成(1年)	1:14'22
ハーフマラソン	石丸翔也(3年)	1:16'22
ハーフマラソン	三浦達彦(1年)	1:23'48
ハーフマラソン	杉浦奈実(2年)	1:28'15

## 11/27 10000m 記録挑戦競技会(国立)

10000m	東大貴(3年)	30'18"68
10000m	宮野健司(3年)	30'43"96

## 11/28 第1回東京大学ディスタンスチャレンジ

800m	宮野健司(3年)	2'06"73
1000m	増田有里子(1年)	3'19"62
1000m	杉浦奈実(2年)	3'38"73
3000m	吉岡基(1年)	9'19"12
10000m	大久保翔平(2年)	32'32"71
10000m	岩川純也(2年)	32'51"47
10000m	梁瀬将史(1年)	33'46"84
10000m	松野智成(1年)	34'38"45
10000m	三浦達彦(1年)	34'24"55

## 12/11 第32回平成国際大学競技会

5000m	東大貴 (3年)	14'37"67
5000m	渡邊駿 (2年)	15'31"22
5000m	大内田弘太郎 (2年)	15'35"75
5000m	梁瀬将史 (1年)	15'46"04
5000m	田片亨典 (1年)	15'49"32
5000m	吉岡基 (1年)	16'07"06
5000m	松野智成 (1年)	16'22"74
5000m	石丸翔也 (3年)	16'26"10
5000m	三浦達彦 (1年)	16'26"54
5000m	原慎一郎 (1年)	16'30"18
5000m	川端紘介 (2年)	17'44"59
3000m	浜松由莉 (2年)	10'20"10
3000m	杉本南 (1年)	10'58"03
3000m	増田有里子 (1年)	11'16"14
10000mW	瀧川朗 (2年)	44'20"56

1991 卒	小野満
2005 卒	藤田靖浩
2009 卒	梶井駿介
2009 卒	金尾太郎
2009 卒	倉員智瑛
2009 卒	小福田大輔
2010 卒	石川恭平
2010 卒	日下桃子
2010 卒	柴田渥史
2011 卒	木内久雄
2011 卒	近藤堯之
2011 卒	定金駿介
2011 卒	早川晃司
2011 卒	堀越彩香
2011 卒	水上雄太
2011 卒	吉村千冬

## 2/6 第33回神奈川マラソン

ハーフマラソン	渡邊駿 (2年)	1:09'52
ハーフマラソン	大久保翔平 (2年)	1:11'06
ハーフマラソン	安達友洋 (1年)	1:12'49
ハーフマラソン	立岡美夏子 (2年)	1:37'02

## 2/20 第18回泉州国際市民マラソン

マラソン	宮野健司 (3年)	2:23'55
------	-----------	---------

## 2/20 第94回日本陸上競技選手権競歩大会

20kmW	早川晃司 (4年)	1:31'01
-------	-----------	---------

## 3/18-19 第3回関西学連記録会

1500m	大久保翔平 (2年)	4'09"70
-------	------------	---------

## 4/2 第44回東京六大学対校陸上競技大会

円盤投	佐々木駿 (3年)	39m37
砲丸投	片山卓也 (3年)	9m98

いずれの試合も学年は試合期日当時のもの。

# 4 主務より

## 4.1 応援OB・OG紹介

4/2(土)に、国立競技場にて行われました六大戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB、OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

1963 卒	井上尚男
1979 卒	中谷敬二

ご多忙の中、お越し下さいましたことに現役部員一同、心より御礼申し上げます。

## 4.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

- 関東IC  
5/14(土)・15(日)・21(土)・22(日) 国立競技場
- 国公立戦  
5/28(土) 上柚木
- 四大戦  
7/2(土) 上尾
- OB・OG戦(T・K マスターズ)  
(仮)7/9(土) 駒場グラウンド
- 七大戦  
7/23(土)・24(日) 札幌・厚別
- 一橋戦  
未定
- 日本インカレ  
9/10(金)・11(土)・12(日) 熊本
- 京大戦(主管)  
10/1(土) 駒場グラウンド

- 箱根駅伝予選会  
10/15(土) 国立昭和記念公園

#### 4.3 連絡先 (慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL : 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail : seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:東大貴

〒 177-0045 東京都練馬区石神井台 7-23-8 北海寮  
325号室

TEL : 090-7644-5461

E-mail: shumu@uttff.org

\* この部便りは下記 web ページでもご覧になれます \*

<http://www.uttff.org/>

\* また、現在、陸上運動倶楽部のメーリングリスト「uttff club」にて、大会結果の速報および部便りのメール送付等を行っております。メーリングリストへの登録をご希望の方、もしくは部便りの郵送不要の方は、お手数ですが学生主務までご連絡下さい \*

主務 東大貴

文責 : 池田剛志